

武蔵野市生涯学習に関する調査報告書

目的

本調査は、第二期生涯学習計画（令和2年度～令和11年度）の計画期間の中間期において、計画進捗度の把握や現在の市民ニーズを得ること、計画の残存期間で新たに実施可能な事業・既存事業の見直しの必要性を検討するための基礎資料を作成することを目的に実施した。

1 市民向け調査

対象：市内に住所を要する16歳以上（無作為抽出）
方法：郵送による調査票発送、郵送またはWEB回収
配布数：1,500名
期間：令和6年10月30日～11月27日
有効回収数・率：578票（38.5%）

2 講座受講者（大人向け）調査

対象：大人向けの市生涯学習講座受講者
方法：各講座終了時に調査を依頼し自記入式で回答後、任意で回収
期間：令和6年11月16日～12月21日
有効回収数：278票

3 講座受講者（子ども向け）調査

対象：子ども向けの市生涯学習講座受講者
方法：各講座終了時に調査を依頼し自記入式で回答後、任意で回収
期間：令和6年7月22日～11月16日
有効回収数：290票

基本理念

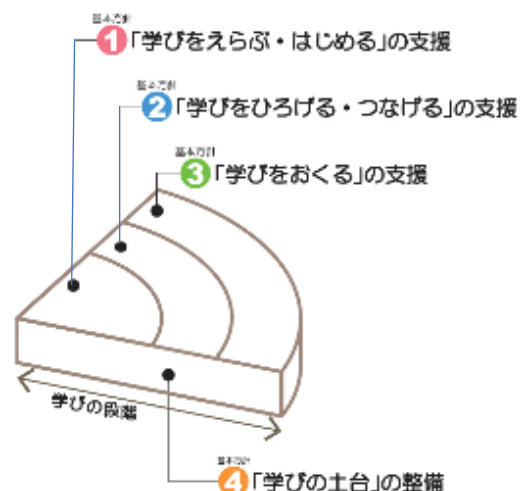
学びおくりあい、わたしたちがつくるまち

第二期武蔵野市生涯学習計画（令和2年度～令和11年度）

生涯学習事業を推進するにあたり市が担う役割は、学びを通じて個人の人生の豊かさを向上させるとともに、学びにより個人と社会を結びつけて地域・コミュニティをよりよくすることです。

第二期生涯学習計画は、その役割を果たす事業を展開するため、市の実施する生涯学習事業を体系化し、総合的・計画的・効果的に推進するために策定されました。

「学びおくり」とは、学んだことを他者、地域、コミュニティ、社会あるいは次の世代へ「おくる」（送る・贈る）ことを意味し、個人の学びが、自然に、かつ自発的に他者や社会とつながっていくさまを表現しています。



武蔵野市ホームページ
第二期生涯学習計画

1 市民向け調査結果のポイント

計画進捗度の把握

■「学びおくり」の認知状況

※報告書 4 頁・34 頁参照

○「学びおくり」の認知度は 9.0%、内容理解度は 2.1%であり、「第二期武蔵野市生涯学習計画」に示している「学びおくり」という考え方が、市民には十分浸透していない。

■学びおくり率、市内の学びの環境への評価

○学びおくり率及び市内の学びの環境への評価に

ついて前回調査※と比較してみると、「④市民や地域・コミュニティの活動の魅力が市内外に発信されている」「⑥将来の担い手となる子どもが学ぶ機会が充実している（学校の授業以外で）」は前回調査よりも増加し、それ以外は減少している。

※報告書 5 頁・23 頁・42 頁参照

※前回調査は平成 30 年度実施

	前回調査 (%)	今回調査 (%)
学びおくり率（学んだことを伝えた割合）	67.2	61.2
①いつでも、学びたいときに学ぶことができる機会が充実している	56.5	48.1
②ライフステージやライフスタイルに応じた学びの機会が充実している	44.0	39.9
③地域やコミュニティの活動に参画するきっかけが充実している	29.6	23.0
④市民や地域・コミュニティの活動の魅力が市内外に発信されている	26.2	27.6
⑤学びや地域・コミュニティ活動のための施設が充実している	44.1	41.9
⑥将来の担い手となる子どもが学ぶ機会が充実している（学校の授業以外で）	33.5	36.8

○第二期生涯学習計画に掲げる「学びおくり」の考え方をさらに浸透させ、個人の学びが、自然に、かつ自発的に他者や社会とつながっていくように、施策や事業を充実させていくことが求められる。

■「学びおくり」を広めていくために～ 学びおくりをしている人の特徴を見ると

≡ 「人生を豊かにするため」に学んでいる

※報告書 7 頁・17 頁参照

○学んだ理由について、学びおくりを「している」では「人生を豊かにするため」「教養を深めるため」、「していない」では「現在または当時の仕事において必要性を感じたため」が高い。

	人生を豊かに するため	教養を深める ため	健康の維持 ・増進のため	家庭や日常生活 に生かすため	現在または当時 の仕事において 必要性を感じた ため
全体（n=325）	60.3	50.2	34.2	28.9	39.4
実施 状況					
学びおくり「している」（n=199）	69.8	60.3	41.2	34.7	32.7
学びおくり「していない」（n=125）	44.8	34.4	23.2	20.0	50.4

≡ 「生涯学習施設」利用者が多い

※報告書 7 頁・39～40 頁参照

○「武蔵野プレイス」「武蔵野市民会館」「武蔵野ふるさと歴史館」の利用度について、どの施設も、学びおくりを「している」の方が利用度は高い。

単位：%

	武蔵野プレイス		武蔵野市民会館		武蔵野ふるさと歴史館	
	利用したことがある	利用したことはない	利用したことがある	利用したことはない	利用したことがある	利用したことはない
全体（n=325）	46.2	53.2	24.6	74.8	8.6	90.8
実施 状況						
学びおくり「している」（n=199）	47.2	51.8	27.6	71.4	12.6	86.4
学びおくり「していない」（n=125）	44.8	55.2	20.0	80.0	2.4	97.6

≡ 学びの環境に対して肯定的

※報告書 7 頁・43 頁参照

○市内の学びの環境への評価について、全ての項目で、学びおくりを「している」の方が「していない」よりも肯定的評価が高い。

学びに対する市民ニーズ

■学びへの関心と意欲

※報告書 8 頁・26 頁参照

／ 学びに積極的

○今後、何かを自分から学びたいと思うかについては、学びの積極層が 93.9%（「学びたい」「学びたいことが見つければ、学びたい」の回答率）。

学びの関心度	
全体 (n=578)	単位：%
肯定的評価	89.8
関心がある	61.8
どちらかというに関心がある	28.0
否定的評価	9.1
どちらかというに関心がない	7.4
関心がない	1.7
無回答	1.0

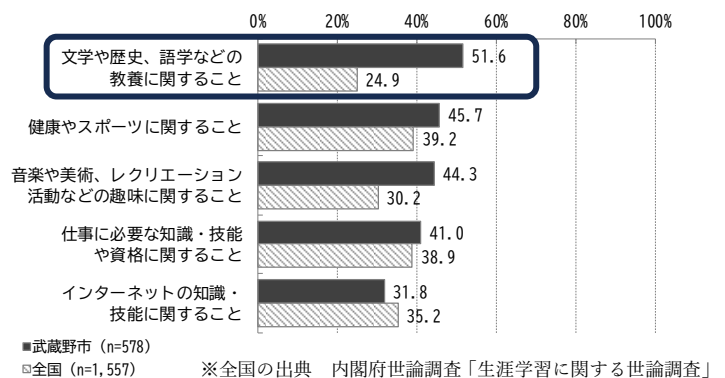
学びの積極性	
全体 (n=578)	単位：%
学びの積極層	93.9
学びたい	56.7
学びたいことがみつければ、学びたい	37.2
何かを学びたいとは思わない	2.8
わからない	2.2
無回答	1.0

■今後学びたい分野(全国調査※との比較)

※報告書 8 頁・27 頁参照

／ 「文学や歴史、語学」「健康やスポーツ」に興味を持っている人が多い

○今後どのようなことを学びたいかについては、「文学や歴史、語学などの教養に関すること」(51.6%) が最も高く、次いで「健康やスポーツに関すること」(45.7%)、「音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味に関すること」(44.3%)、「仕事に必要な知識・技能や資格に関すること」(41.0%) となっている。全国調査※と比較すると、「文学や歴史、語学などの教養に関すること」では 26.7 ポイント高くなっている。



■オンライン・オンデマンドでの学び

(令和 4 年 7 月調査)

○過去 1 年間の対面・オンライン・オンデマンドでの学びの経験は、※報告書 9 頁・21～22 頁参照
全体では「対面」が 62.2%と多いが、年代別にみると、「29 歳以下」「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」ではオンライン、オンデマンドの経験が 3 割から 5 割ほどあり、また、職業の有無別では「有職」でオンラインの経験が 4 割強と、ニーズがあることが分かる。

■学びの理由

※報告書 9 頁・16～17 頁参照

○学びの理由を年代別でみると、「人生を豊かにするため」の割合が 6 割前後と高いが、「現在または当時の仕事において必要性を感じたため」では「30 歳代」が 6 割強、「40 歳代」で 5 割強、「29 歳以下」で 5 割、「就職や転職のために必要性を感じたため」では「29 歳以下」で 3 割半ばであり、特に「29 歳以下」「30 歳代」「40 歳代」でリスクリングタイプへのニーズが高いことがうかがえる。

		リスクリングタイプ			人生を豊かにするため
		現在または当時の仕事において必要性を感じたため	就職や転職のために必要性を感じたため	勤務先などから勧められたため	
全体 (n=325)		39.4	14.2	7.7	60.3
年代別	29歳以下 (n=40)	50.0	35.0	7.5	57.5
	30歳代 (n=44)	61.4	22.7	13.6	47.7
	40歳代 (n=50)	52.0	20.0	12.0	68.0
	50歳代 (n=62)	41.9	12.9	8.1	64.5
	60歳代 (n=58)	24.1	3.4	6.9	67.2
	70歳代 (n=49)	18.4	4.1	2.0	51.0
	80歳以上 (n=22)	27.3	0.0	0.0	63.6

2 講座受講者(大人向け)調査結果のポイント

■学びおくりの認知度

○講座受講者(大人向け)調査結果では、学びおくりの認知度は19.5%、内容理解度は10.1%と市民向け調査結果(無作為抽出)より高くなっている。

	認知度(%)	内容理解度(%)
市民向け調査:全体(n=578)	9.0	2.1
講座受講者調査(大人向け)(n=278)	19.5	10.1

※報告書4頁・59頁参照

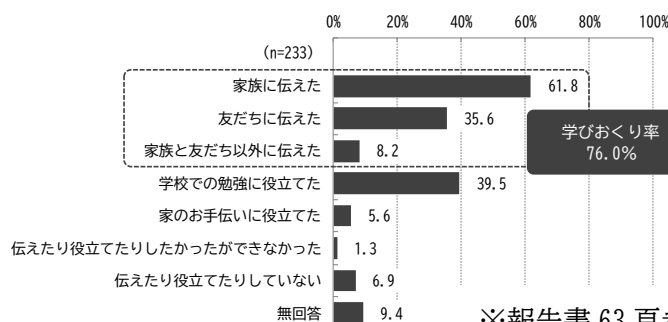
■学びおくり率

○学んだことを、誰かに伝えたり役立てたりしたか(学びおくり)をきいたところ、「学びおくり率」は62.2%である。

※報告書58頁参照

3 講座受講者(子ども向け)調査結果のポイント

○学んだことを、誰かに伝えたり役立てたりしたか(学びおくり)をきいたところ、「家族に伝えた」(61.8%)「友だちに伝えた」(35.6%)等、学びおくり率は76.0%である。「学校での勉強に役立てた」(39.5%)も高い。



※報告書63頁参照

4 講座受講者調査結果からみたニーズ

○講座受講者(子ども向け)調査より「講座に参加しやすい時間帯」

① 春休み・夏休み・冬休み 61.0%

※報告書65頁参照

② 土曜日午前 37.9% ③ 日曜日午前 34.8%

○講座受講者(大人向け)調査より「武蔵野市の生涯学習講座をより良くしていくため」の意見

- ・ワークショップや体験がもっとたくさんあると、講座内容が分かりやすい。(10代)
- ・グループワークというか、みながどう思っているか知りたい。(20代)
- ・そもそもどんな講座があるのか知らない。写真付きの紹介ポスターなどが図書館にあったら目にとまるかも。(30代)
- ・多世代交流のできるような講座。10代の子と一緒に学べる講座。(50代)
- ・「市民の、そのジャンルになじみのない人に広く浅く」というものと、「より掘り下げる」というものの両方をやってほしい。(50代)
- ・出来たら対面で、直接講師の思いを感じたい。(70代) 等

※報告書10～12頁参照

(自由回答48～57頁より抜粋)

今後の講座の検討に向けて

検討するためのヒントやキーワード、考え方を抽出した。

◇告知・周知の工夫

◇多世代交流

◇生活に役立つテーマの選定

◇体験型・実地型、ワークショップ型講座

◇勤労者世代、若い世代の参加

◇講座のレベル感の多様化

※報告書10～12頁参照

武蔵野市教育委員会教育部生涯学習スポーツ課
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
電話 0422-60-1902
E-mail sec-syougaku@city.musashino.lg.jp